

1 調査概要

調査目的	子ども・若者育成支援推進法（令和6年改正）によりヤングケアラーへの支援が国・自治体の責務として明記されたことを受け、県内の実態把握と支援策立案を目的として実施
調査対象	令和7年12月1日時点の県内在住18歳から39歳までの男女5,000名
抽出方法	県内在住者から市町ごとに無作為抽出
実査期間	1月9日（金）～2月1日（日）の24日間
回答形式	対象者へ郵送でアンケート依頼ハガキを郵送し、Web上での回答
回収率	有効回答：881件 回収率：17.6%
定義	本調査では、子育て（自分の子の養育）や、障がい・疾病のない配偶者以外のお世話を現在行っている、または過去に行っていた現在18歳以上の方をヤングケアラーとみなしています。そのうち現在もお世話をしている方を「若者ケアラー」としています。

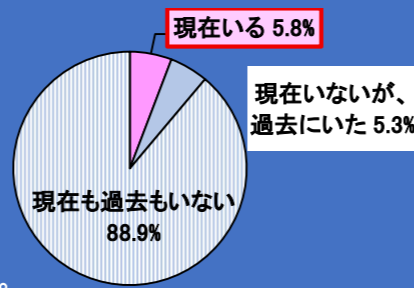
2 18歳以上ヤングケアラーの実態

①若者ケアラーに該当する方

回答者881名のうち、「現在お世話をしている家族がいる」

**若者ケアラー51人（5.8%）**

本調査では「過去にお世話をしていた」47人（5.3%）と合わせて計98人（11.1%）をヤングケアラーとみなし、その実情やニーズを分析しています。



②若者ケアラーの属性（現在お世話中 n=51）

年代：10代2.0% 20代23.5% 30代74.5%

性別：男性41.2% 女性56.9%

職業：会社員・団体職員58.8% パート・アルバイト17.7%  
公務員9.8%など

30代 7割  
女性 約6割  
正規雇用 約9割

③若者ケアラーのお世話の対象者（現在お世話中 n=51）

母親37.3% 祖母23.5% 父親21.6% 祖父11.8%

兄・姉9.8% 弟・妹5.9%

※祖父母・父母・きょうだいの重複は除く

父母のお世話5割  
祖父母のお世話3割  
きょうだいのお世話1割

④若者ケアラーのお世話の頻度と1日当たりの時間（現在お世話中 n=51）

お世話の頻度：ほぼ毎日39.2%最多

平日の標準的なお世話時間：1時間以上3時間未満43.1%最多

休日の標準的なお世話時間：1時間以上3時間未満33.3%最多

平日のほぼ毎日7時間以上のお世話 **15%存在**

休日のほぼ毎日7時間以上のお世話 **35%存在**

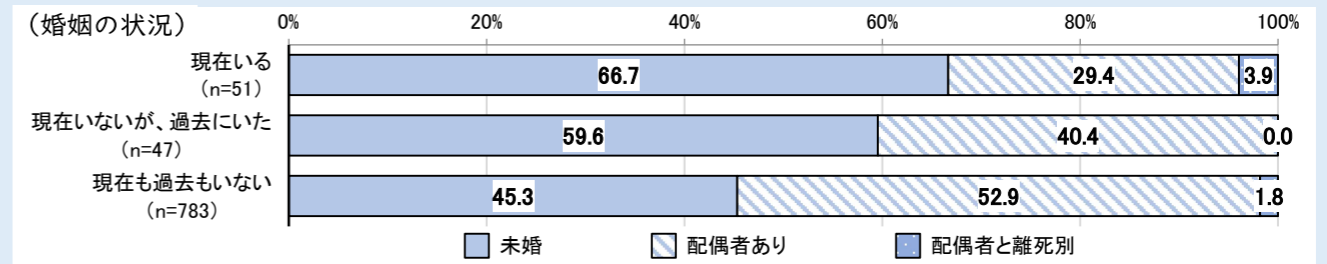
休日7時間以上のお世話19.6%（平日9.8%の2倍）

	全体 (n)	割合 (%)					
		1時間未満	3時間未満	5時間未満	7時間未満	7時間以上	その他
平日	51	21.6	43.1	19.6	5.9	9.8	0.0
休日	51	23.5	33.3	17.7	3.9	19.6	2.0

3 若者ケアラー・ヤングケアラーの課題<婚姻・子ども>

婚姻・子ども（回答者 n=881）※現在お世話中の人=現在いる、お世話経験のない人=現在も過去もない、以降同じ  
現在お世話中の人のお世話経験のない人の未婚率は66.7%、お世話経験のない人の未婚率45.3%  
また、現在お世話中の人のお世話経験のない人の「子どもはいない」74.5%、お世話経験のない人の「子どもはいない」54.3%

**現在お世話中の人のお世話経験のない人は未婚率21.4ポイント高い・子どもがない20.2ポイント高い**

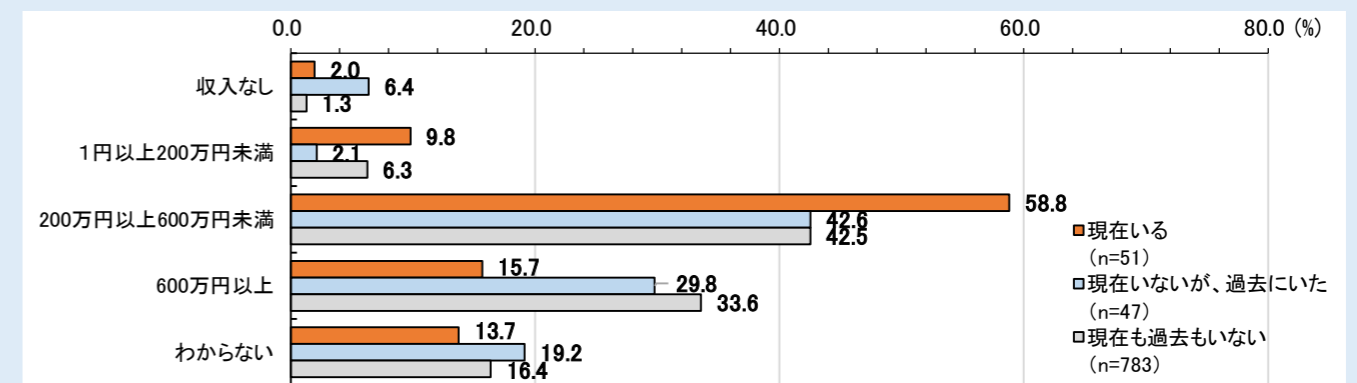


4 若者ケアラー・ヤングケアラーの課題<経済状況>

生計・収入源・収入金額（回答者 n=881）

（現在お世話中） 生計を支えている人：「あなた自身」45.1%、「配偶者」21.6%、「母」11.8%、「父」5.9%  
世帯の収入源：「就労、事業による収入（農業収入を含む）」84.3%最多  
世帯の収入：200万円以上600万円未満58.8%最多

**現在お世話中の人のお世話経験のない人のうち、4割は生計を支えている**  
**お世話経験のない人の世帯よりも600万円未満の世帯の割合が高い**



5 若者ケアラー・ヤングケアラーの課題<ヤングケアラーの認識状況>

ヤングケアラー自己認識（ヤングケアラー n=98）

ヤングケアラーと認識している人（自覚層）  
現在お世話中の人（n=51）58.8%  
過去にお世話をしていた人（n=47）42.6%

一方、現在お世話中の人（n=51）の中に自身をヤングケアラーと認識していない人（潜在層）が41.2%存在

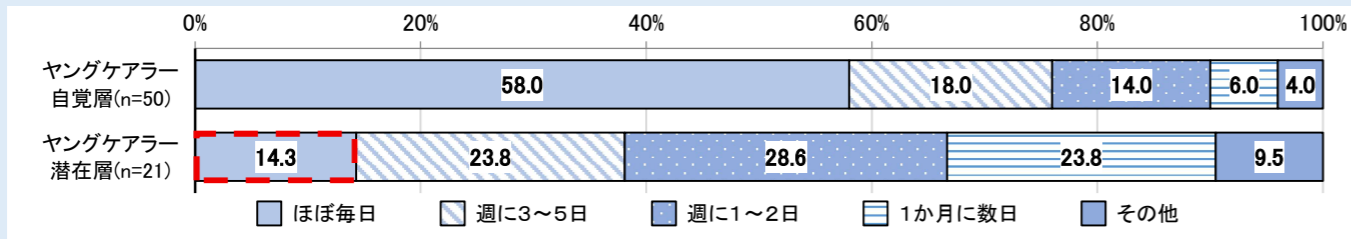
	全体 (n)	割合 (%)			
		現在いる (n=51)	現在いないが、過去にいた (n=47)	現在も過去もない (n=783)	その他
自覚層	98	23.5	27.6	36.7	12.2
潜在層	51	39.2	19.6	23.5	17.7
現在いないが、過去にいた	47	6.4	36.2	51.1	6.4

**現在お世話中の人のお世話経験のない人の4割は自身をヤングケアラーと認識していない（潜在層の存在）**

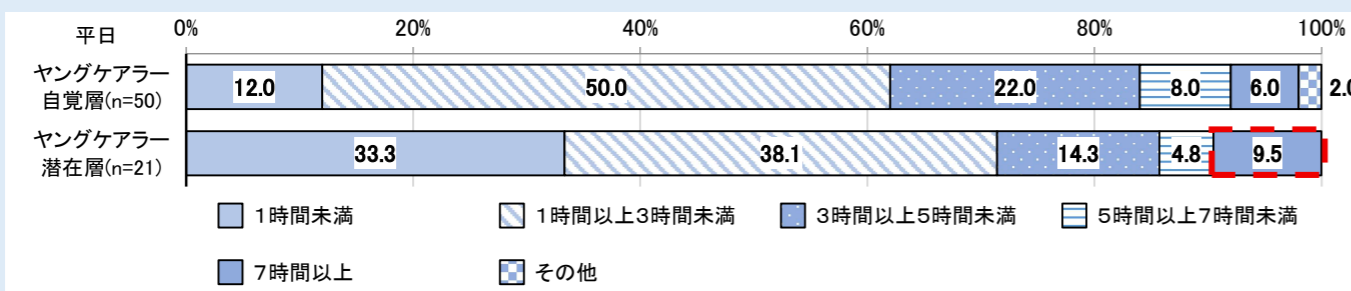
6 若者ケアラー・ヤングケアラーの課題<自覚層・潜在層>

ヤングケアラー自覚層と潜在層のお世話の状況

ヤングケアラーの自覚がない潜在層でも「ほぼ毎日」お世話14.3%存在



ヤングケアラーの自覚がない潜在層でも平日「7時間以上」お世話9.5%存在



お世話の頻度が多い人、お世話に長い時間を奪われる人の中には、自身をヤングケアラーと認識していない人（潜在層）が一定数存在  
潜在層は過度なお世話の頻度や時間にもかかわらず無意識

7 若者ケアラー・ヤングケアラーの課題<ライフイベントへの影響と求める支援>

ヤングケアラー自覚層でみるライフイベントへの影響（右図-1）

生活の質：自由時間（52.0%）、睡眠時間（26.0%）  
 学業・キャリア：学業（16.0%）、昇進・キャリアアップ（16.0%）、勉強時間（14.0%）、資格取得（10.0%）  
 人間関係：友達づきあい（28.0%）、恋愛（22.0%）、部活動・サークル活動・趣味活動（18.0%）  
 ライフイベント：一人暮らし（30.0%）、結婚（12.0%）、子どもを持つ（10.0%）

ヤングケアラー自覚層ほど、多くのライフイベントに影響を受けている

ヤングケアラー自覚層の求める支援（右図-2）

・家族への経済的な支援（54.0%） ・利用できる制度やサービスを教えてほしい（52.0%）  
 ・家族の世話の代行（36.0%） ・あなた個人への経済的支援（学費以外）（24.0%） ・職場の理解・学校の理解（24.0%）  
 ・病気や障害に関する知識、世話の仕方を教えてほしい（24.0%）

ヤングケアラー自覚層ほど、家族や本人への経済的な支援はもとより、家族の世話の代行、利用できる制度やサービスの紹介、人生設計についての相談・サポート、職場・学校の理解など、多面的な支援を求めている。

図-1（ケアすることでできなかったこと）

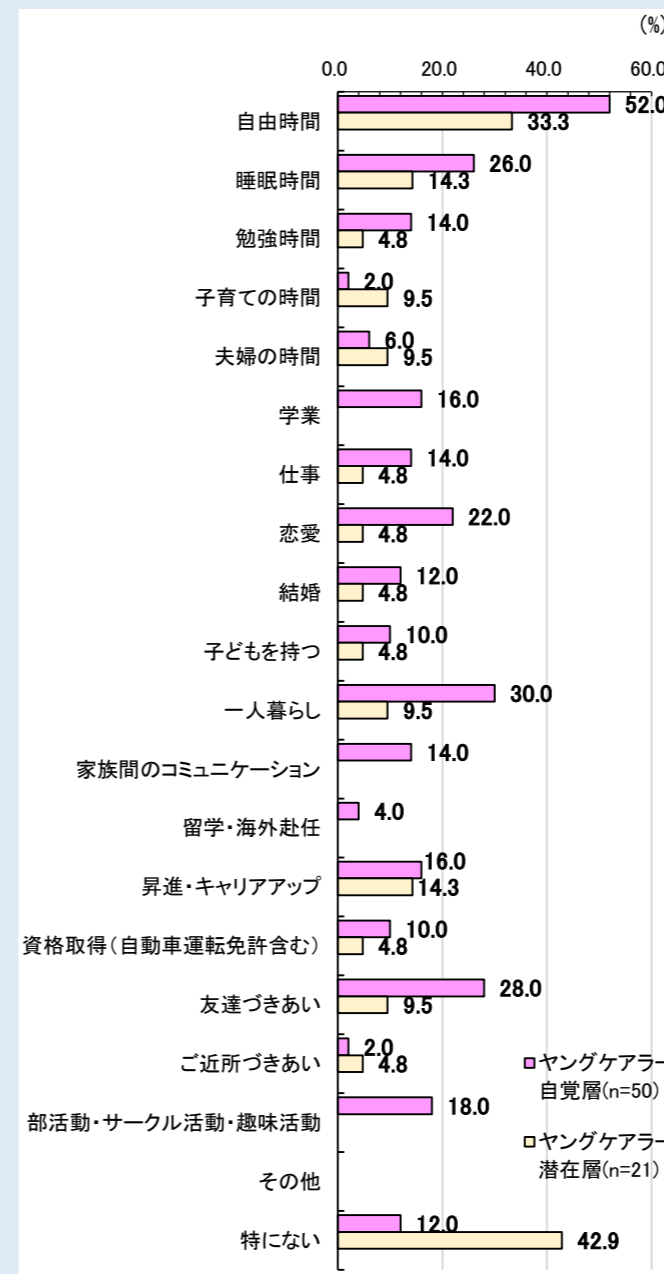
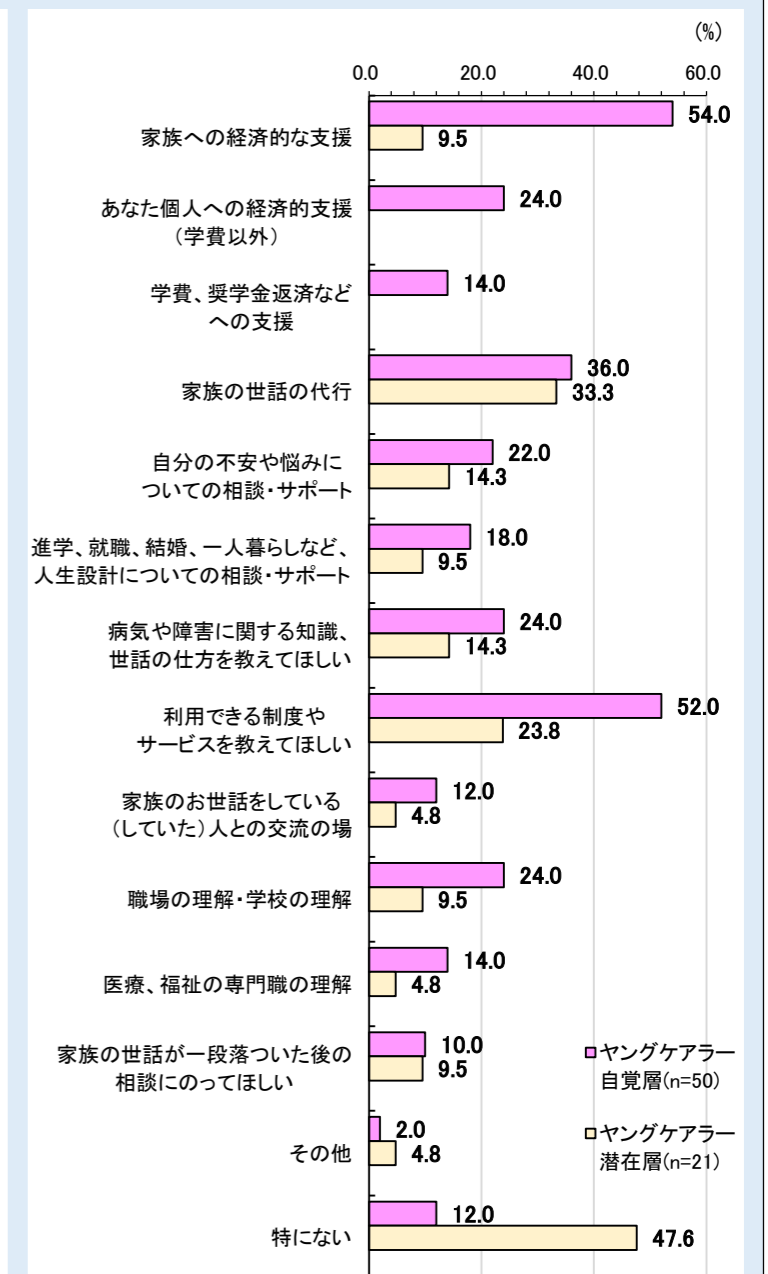


図-2（ケアしている人が欲しい支援）



8 愛媛県 18歳以上ヤングケアラー実態調査まとめ

本調査により、愛媛県内の18歳から39歳の中で「現在お世話中の若者ケアラー5.8%」が存在し、生活満足度、健康、経済、就労、ライフイベント等に多面的な影響を受けている実態が明らかになりました。あわせて自身をヤングケアラーとして自覚していない人（潜在層）は、長時間お世話をしていることや、「家族の世話は当然」などの規範意識の存在、家族ケアが生活の質・健康・経済・就労・ライフイベント等へ影響を与えている現状が確認されました。

また、ヤングケアラー当事者であっても4割以上が「ヤングケアラーをよく知らない」または「聞いたことがない」と回答しており、ヤングケアラーの認知度や社会的理解について、向上の余地があることが確認されました。